

山家清兵衛 没後400年

神となり、 伝説になった 「われいさま」

没後400年という節目にあたり、
その軌跡を振り返ります。



山家清兵衛肖像画 伊達村侯69歳筆
(和霊神社蔵)

宇和島藩を揺るがした 「宇和島騒動」から400年

伊達政宗からの厚い信頼

「われいさま」の愛称で現在でも宇和島の人たちに親しまれる和霊神社。漁業を中心とする産業の神として中四国地方を中心に崇められている和霊信仰の総本社です。主祭神は、山家清兵衛。宇和島藩祖・伊達秀宗の重臣だった人物です。清兵衛はその有能さから、秀宗の父・伊達政宗からの信頼も厚かったといわれています。秀宗が宇和郡10万石を拝領した際、入部にあたり政宗は自分の家臣の清兵衛を、民政・財政担当の総指揮者に抜擢しました。

一家襲撃の大事件

宇和島藩の財政立て直しなどに力を尽くす清兵衛でしたが、藩の資金繰りのやり方をめぐって一部家臣と対立。反対派を結集させる元となっ
てしまいます。そして1620年6月30日の深夜に襲撃され、非業の死を遂げました。後に「宇和島騒動(和

霊騒動)」とも呼ばれるようになるこの事件以降、不可解な出来事が相次ぎました。それらは清兵衛の崇りだと恐れられ、その御霊を鎮めるために祀られることになりました。

これまで没後の節目には盛大な祭礼が行われてきましたが、今年新型コロナウイルスの影響で断念しました。伊達博物館には、300年祭当時の様子を記録した、須賀川沿いに並ぶ行列を写した写真が所蔵されています。



300年祭で須賀川筋を歩く行列 (伊達博物館蔵)



②



①

①「御霊を和ます」という意味の和霊。全国には200社を超える和霊神社がある②姉妹都市仙台市には、ビルの屋上に和霊神社がある③市指定記念物（史跡）の山家清兵衛の墓。日ごろから好意を寄せていた人たちにより葬られ、領内の庶民も清兵衛の高徳を慕い香華の煙が絶えなかったといわれている（所有：金剛山大龍寺）。④伊達博物館では清兵衛の命日のころに甲冑などゆかりの史料を展示している。



④



③

秋期特別展

山家清兵衛没後400年

伊達と和霊様 - 忠直剛毅の軌跡 -

本展は、清兵衛の「人物像」、「和霊騒動」、神となり伝説となった「その後」の3つのテーマで構成しています。

清兵衛夫人の伝承が残る妙楽寺(松野町)や大阪城天守閣などから借りた資料も展示します。

【と き】11月8日(日)まで

【ところ】伊達博物館

【休館日】毎週月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)

【料 金】大人500円、65歳以上・大学・高校生400円、中学生以下無料(団体・障がい者割引もあります)

【問合先】伊達博物館 ☎22-7776 FAX 22-7819

清兵衛の魅力

周りからの厚い信頼

秀宗からの信頼が厚かったと言われる理由の1つに、「大坂城石垣普請」という出来事があります。徳川家康が豊臣家を攻め滅ぼし焼けてしまった大坂城。清兵衛は、その後の大坂城再築工事を任されました。

再築工事にはどの大名もそれぞれ信頼のおける重臣を派遣し、清兵衛は秀宗から宇和島藩の現場指揮監督に任命されました。今回の伊達博物館秋期特別展で展示している、大阪城天守閣から借りた関連資料は一見の価値があります。清兵衛に関する伝承などもパネルで紹介しています。

「山家清兵衛」はどのような人物で、どのようなことを行っていたのか、より多くの皆さんに知ってほしいです。



伊達博物館学芸員
伊藤さん